

10年やったイランの仕事が終わると、今度はイラクのクエートへの侵攻でした。侵攻の1ヶ月前に、私はイラクから8千数百万円の100%前途金を現金で受け取っており、機械メーカーに製造開始させていました。私はイラクと最後の取引をした日本人であると自負しております。クエートも私共と常時取引していた大事な国でした。

会社を退職して数年になりますと、全て遠い昔の淡い思い出となっています。文集に書けと云われてみると、結構いろいろなことが走馬灯のように思い出されてくるものです。これは文集発行と張り切っている幹事たちに逆に感謝すべきと思うようになっていきます。

◎インドネシア

駐在員の若い夫人が一時帰国からもどり、飛行機がネシヤの上空にたどり着くと顔と体が自然にこぼれてくるとのこと。それは、またもやあのぞっとするネシヤでの生活が始まるのだと思うからである。

日本からの駐在員は、30歳前後の若い人でも、当時の日本でも考えられない広い豪邸に住み、3~4人の召使いを使い、生活するようになっているのである。その国の地方政府は家賃を稼ぎ女の雇用を確保するために、それを義務づけているのです。その3~4人の召使いは、例えば掃除担当の人はトイレを拭いたぞうきんで平気で食卓も拭くのである。また、家の中の細々とした品物はよくなり、特に召使いが年1~2回の休みで実家に帰るときは、ごっそり品物がなくなるとのこと。夫人たちは毎日そんな生活を強いられており、耐えられない状況に置かれているのである。

私は南アフリカで30歳前の駐在員の住む家を外から見たことがあるが、なんと一辺100m以上の長さの高い塀に囲まれた広い屋敷であり、塀の上から高い木々が見えて、屋敷にはテニスコートとプールがあるとのこと。この国は黒人が大部分しめており召使いも多数いることでしょう。

家賃と召使いの費用は会社で支払うと思うが、そうしないと日本からの駐在員はこの国で活動できないようになっているのである。それはどの後進国でも同じなのです。



インドネシア(左)49歳

◎タイ

3回出張したが、首都のバンコックだけである。タイはかなりの親日の国であり、タイ人は男女共に顔は日本人そっくりで、カラオケをやる店に行くと多くの若い女性がいるが、ある日本の女優と間違えるほどの女性と会い、どきっとしたこともある。タイの日本人の駐在員は、土日曜の休みには必ずゴルフをやる。しかし18番ホールを終わると、日本では風呂に入り軽食で一杯やって帰るが、タイでは風呂にも入らずすぐに帰るのである。それはバンコックには「マッサージ屋」がありそこに寄るからである。マッサージ屋では屋内に大きなショーウィンドウみたいなのところがあり、20歳台の若い女の人が100人ぐらい胸に番号札を付けて、正装して座って並んでおり、それをガラス越しに客がみて、番号でマッサージ師を指名するのである。風呂場に行き半裸のマッサージ師は客と風呂に入り客の体を隅々まで懸命に洗ってくれる。それが終わると看板のタイ式マッサージが始まる。日本のマッサージは上半身を揉んだり指圧する

かだが、タイ式は足を中心にやり、客の足を自分の肩に付けるほど持ち上げたり、とにかく全身の体力を使い顔に汗をにじませながら一生懸命にやってくれる。タイのマッサージ師の技、仕事ぶりは見事なりと思うほど。ここまでがマッサージ屋のどの客にもやる看板の仕事である。費用は日本円で3,000円くらいだったと思う。ゴルフで歩いた疲れなどぶっ飛ぶ。客が希望すればそこで19番ホールでのホールインワンもできる。その費用も含めて全部で、1万円でお釣りがくるのである。これではゴルフ場の風呂で、いい湯だなあなどとやっている人は1人もいないわけである。駐在員のご夫人たちは、最初は気が付いていないが時間が経つとだんだんと亭主のゴルフの後の行動の実態に気が付いてくる。しかし亭主の休日のゴルフをやめさせる訳にはいかない。ゴルフでもやらぬとこの国での激務などやられてられないことも分かっているから。ご夫人たちはどう対策をたてどんな防止策をやったかは、聞いたことがないので私は知らない。これだけ聞きたかったなあとも今でも思う。



孫・私・妻



時代を先取りした技術の研究に努め、顧客のあらゆる要望に応える事により、自然に調和したより良い生活環境を創出しています。

測量調査
土木設計
地盤調査
補償コンサルタント
土地家屋調査



株式会社 三山コンサルタンツ

代表取締役社長 佐々木 進 (昭和40年採鉱科卒)

〒164-0001 東京都中野区中野3丁目3番地1

TEL 03-5328-7020 FAX 03-5328-7021

E-mail : s-sasaki@miyama-con.com

一般社団法人 送電線建設研究会
送電線測量設計協力会